

保健課題

医薬品と健康

医薬品の種類: 「医療用医薬品」と「一般用医薬品」 ⇔ 「原因療法薬」と「対症療法薬」

「医療用医薬品」と「一般用医薬品」

医療用医薬品: (①) を受けた後に使用される医薬品のこと。(②) により、薬局で調剤してもらった薬や、医療機関で直接もらった薬。診断を受けた患者にはとても有効だが、他人が服用すると副作用などの危険をとまなう。

一般用医薬品(③): 一般の人が必要に応じて薬局・薬店で自由に買い求めることができる薬。この医薬品はたくさんの人の共通の症状に対するものなので、人によって効果が強かったり弱かったりする。

<(④): コンビニエンスストアなど薬局以外で購入できる作用が緩和な薬。>

「原因療法薬」と「対症療法薬」

原因療法薬: (⑤) を直接取り除くための薬。ある細菌によって引き起こされる病気に対し、その細菌を死滅させる成分を含んだ薬や、ビタミンや鉄分といった体に必要なものの不足によって引き起こされる病気に対して、それを補うための薬。

対症療法薬: 病気にとまなう (⑥) をやわらげるための薬。頭痛薬や解熱剤、咳止めなど。

薬の副作用

医薬品の医療上有益な作用が薬効(⑦) と呼ばれ、逆に有益でない作用を(⑧) といふ。主作用も副作用も、医薬品の人体への作用である。

大衆薬による副作用

(⑨): 血圧低下、呼吸困難などのショック症状

かぜ薬・解熱鎮痛薬・鼻炎用内服薬・眼科用薬
ステイブンスン・ジョンソン症候群: 発熱、発疹、粘膜のただれ、眼球の充血などの症状を特徴。失明や致命的となることも。かぜ薬・解熱鎮痛薬

肝機能障害: かぜ薬・解熱鎮痛薬・鼻炎用内服薬・滋養強壮保健薬・漢方製剤・胃腸薬

皮膚炎: 鎮痛消炎薬

医療用医薬品による副作用

ペニシリン、ピリン剤、フェノバタールなど: アナフィラキシーショック・(⑩)
(⑪)

食べ物アレルギー: (⑫) → 塩化リゾチーム 牛乳 → タンニン酸アルブミン

薬品の相互作用

薬と薬の「飲み合わせ」のことで、薬が効きすぎて副作用が出やすくなったり、逆に薬が効かなくなったりすること。薬と食べ物や飲み物、嗜好品などでも、薬の作用が強くなったり弱くなったりする。テトラサイクリン系の抗生物質と(⑬) <胃薬>などで金属イオンが多く含まれている薬と一緒に飲むと

吸収されにくいキレートという物質になる。抗生物質のうち、テトラサイクリン系とニューキノロン系のものは、

(⑭) のカルシウムとで、吸収が阻害される。お酒は血液の循環を良くするために

(⑮) や精神安定剤では危険なこともある。グレープフルーツジュースと一緒に飲むと

(⑯) の血中濃度が上昇し、作用が増強される。

医薬品の使い方

薬の種類を確認し、(⑰)、(⑱)、(⑲) を守る。

(1) 「用法……飲む時間、回数」

(2) 「用量」……効果が強く現われ過ぎる現象を生み出し副作用が出現

(3) 「(⑳) を変えてはいけない」……効果を持続する目的で作られたカプセルをはずして飲むと、一気に吸収されて予期せぬ効果が現れる。腸で溶けるはずの「腸溶錠」が胃で溶けて胃腸障害、または胃で分解されて効果がなくなる。

(4) 「飲み合わせの注意」

(5) 妊娠している人、妊娠している可能性のある人、授乳している人へ

妊婦は胎盤を通して、授乳婦は母乳を通して薬が胎児や子供に影響を与える場合がある。